

社会資本総合整備計画 事後評価書

五所川原市中心市街地及び周辺地域の活性化

あおもりけん ごしよがわらし
青森県 五所川原市

平成28年7月

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年7月28日

計画の名称	2 五所川原市中心市街地及び周辺地域の活性化		
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）	交付対象	青森県五所川原市
計画の目標			

五所川原市中心市街地は、西北五地域の中心商業地として発展してきたが、モーターレーゼーションの進展と商業を取り巻く環境の変化に伴う店舗の減少及び居住者人口の減少により、衰退が続いている。本市では、地域固有の歴史・文化資源である立佞武多を活用した活性化を目指し、平成16年度に立佞武多の館を開業、同年度に大町二丁目地区土地区画整理事業に着手し、現在施行中である。本計画においては、土地区画整理事業の完了及び地域防災計画に計画されている地震等災害時の飲料水の供給量のうち、1万人の飲料水を確保する耐震性貯水槽の整備、立佞武多の館のPRや防災意識啓発活動などの地域活性化事業を実施し、安心・安全な都市環境の確保により中心市街地の活性化を市民と協働で目指すものである。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・立佞武多の観光入込み客数を147万人/年（H22）から150万人/年（H27）に増加。
- ・地震等災害時のライフラインが停止状態において、1万人の飲料水を確保。
- ・中心市街地で開催されるイベントの開催回数を6回/年（H22）から13回/年（H27）に増加。

定量的指標の定義及び算定式

- ① 五所川原市立佞武多運営委員会が発表する観光客入込み客数を計測する。
- ② 一人一日生命維持に最低限必要な飲料水3Lを3日間確保できる人数。
- ③ 元気な街・安心に生活できる街をテーマとしたイベントの開催数を計測する。

定量的指標の現況値及び目標値			備考
当初現況値 (H22)	中間目標値	最終目標値 (H27末)	
147万人/年		150万人/年	
0人		1万人	
6件/年		13件/年	

全体事業費	合計 (A+B+C)	863百万円	A	354百万円	B	384百万円	C	125百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	14.5%
-------	---------------	--------	---	--------	---	--------	---	--------	---------------------------	-------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業主管課及び関係各課により、目標の達成状況やその要因を分析し、今後のまちづくり方策を検討した。	平成28年7月
公表の方法	市のホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A1 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H23	H24	H25	H26	H27			
2-A-1	都再区画	一般	五所川原市	直接	五所川原市	大町二丁目地区土地区画整理事業	道路・広場、耐震性貯水槽等 4.4ha	五所川原市						354		
										合計	354					
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
2-B-1	街路	一般	五所川原市	直接	五所川原市	改築	3・4・1号大町寺町線整備事業	L=180m W=15m、照明灯4基	五所川原市					321		
2-B-2	道路	一般	五所川原市	直接	五所川原市	改築	市道中部26号線整備事業	L=200m W=6.00m	五所川原市					40		
2-B-3	下水道	一般	五所川原市	直接	五所川原市	新築	雨水幹線・汚水管渠整備事業	雨水 L=20m 汚水 L=65m	五所川原市					23		
										合計	384					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
2-B-1	都市再生区画整理事業（2-A-1）と一体として整備することにより、地区内の幹線道路として交通機能が高まり、快適な歩行者空間が確保され、立佞武多の祭り期間中の入れ込み客数の増加に期待できる。	
2-B-2	都市再生区画整理事業（2-A-1）と一体として整備することにより、交通機能が高まり、快適な歩行者空間が確保され、立佞武多の祭り期間中の入れ込み客数の増加に期待できる。	
2-B-3	都市再生区画整理事業（2-A-1）と一体として整備することにより、居住者の良好な都市環境を確保する。	

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
2-C-1	施設整備	一般	五所川原市	直接	五所川原市	新設	立佞武多の館小径整備事業	A=250㎡、広場防災関連施設	五所川原市						76	
2-C-2	調査・設計	一般	五所川原市	直接	五所川原市	調査・設計	区画整理調査等	画地測量・換地計画業務(4.4ha)	五所川原市						39	
2-C-3	活動支援	一般	五所川原市	直接	五所川原市	活動支援	地域活性化事業	パンフレット作成・防災活動	五所川原市						10	
										合計					125	
番号 一体的に実施することにより期待される効果														備考		
2-C-1 都市再生区画整理事業(2-A-1)と一体として整備することにより、良好な都市環境が整備され、中心市街地の活性化に期待できる。																
2-C-2 都市再生区画整理事業(2-A-1)と一体として整備することにより、土地区画整理事業の早期完成を促進し、市街地の防災性の向上が図られる。																
2-C-3 都市再生区画整理事業(2-A-1)と一体として整備することにより、立佞武多の祭り期間中の入り込み客数の増加及び市民の防災意識の向上により災害時の自主防災の対応に期待できる。																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況															
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況				<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業の施行により、中心市街地活性化の基となる新たな都市基盤が整備され、有効な土地活用が増加している。また、施行前の空き店舗等が並ぶ密集家屋地域が解消され、さらに防災機能を有する広場公園が整備されたことにより、市街地の防災性が向上し安全・安心な都市環境が確保されるとともに市民の防災意識も向上している。 拡幅された道路や広場公園などのスペースが生まれ、開放的な街並みとなったことで祭りへの観光客を呼び込みやすくなったほか、スペースを活用したイベントが増えている。 											
II 定量的指標の達成状況		指標①(観光客入り込み客数)		最終目標値	150万人/年	目標値と実績値に差が出た要因	平成22年からは入り込み客数が減少傾向であり、目標には達することができなかった。								
				最終実績値	106万人/年										
		指標②(飲料水3L3日間確保できる人数)		最終目標値	1万人	目標値と実績値に差が出た要因		土地区画整理区域内に、100m3(100,000リットル)の耐震性貯水槽を有する広場公園(立佞武多広場)が計画通り整備され、災害時の飲料水が確保できたことから、目標を達成した。							
				最終実績値	1.1万人										
		指標③(中心市街地イベント開催数)		最終目標値	13件/年	目標値と実績値に差が出た要因			当初からのイベントに加え、防災機能を有する広場公園(立佞武多広場)が整備されたことによる防災関連のイベントや、市街地の貴重な空間を利用した盆踊り大会や市民交流イベントなどが実施された。また、土地区画整理区域内に建築された民間の商業施設においてもイベントが実施されたことから、目標を達成した。						
				最終実績値	16件/年										
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				<ul style="list-style-type: none"> 広場公園を整備したことで、大小各種イベントが以前より増加し、中心市街地のスペースを活用しようとする市民や団体の動きが活発化してきている。 											
3. 特記事項(今後の方針等)															
<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業が完了し、また安全安心な市街地の防災性が向上したことから、今後は地域住民のための利便性の良い魅力をもった商業地の形成を目指す。 平成28年3月に北海道新幹線が開業したことから、立佞武多を中心とした歴史・文化の情報発信を強化し、官民一体となって受け入れ態勢を整え、ソフト面の施策を充実させることで観光客等来訪者数の増加を目指す。 															